関西自然保護機構会報 17(2)：151－152，1995

か す が や ま

大阪市立大学大学院理学研究科　川　﨑　稔　子

MY FAVORITE, KASUGAYAMA

Toshiko KAWASAKI　*Faculty of Science, Osaka City University.*

私たちが観察を続けている春日山の調査区には，林冠に達するタワーが二本ある。私は林内を歩き回るよりここにいる時間のほうが長い。このタワーは五年前カラスザンショウの樹冠に届くように建てたもので，うちの研究室に在籍している（していた）人たちの汗がしみこんでいる。材料は工事現場の足場だが，自分たちで組み立てたのだ。たぶん一番辛かったのは荷揚げ作業だろう。「たぶん」とか「だろう」とかいう言葉が付くのは，私はほとんど働いていなかったからだ。言い訳をしておくと，筋力がないことと背が低いのでつかえてしまって大きな資材は担げないことが理由だ。

資材が全てそろうと次は建設だ。斜面をスコップで削って平らにし，カケヤで叩いて固め，四隅に置いたコンクリートブロックのうえに足を据えてパーツを組み立てていく。仕上げに私が乗るタラップを置いて完成。言葉にすればたったこれだけのことが，実際にやるとどれだけしんどいことか。最初は同じ場所に二本建ててあったのだが，二年後一本を解体して場所を移した。合計三本建てたことになる。日頃あらためてお礼を言うのも照れくさいのでこの場をお借りして言わせてもらいたい。ありがとう，みんな。

さて，タワーでの一日だが，私はここで七月から十二月までひたすら花（果実）を数えて過ごす。花と言ってもカラスザンショウのものはすごく地味で，つまりきれいでない。ただしミカン科だけあって果実は柑橘系の香りがする。夏の昼間は酔ってしまいそうになる程だ。山の中だから夏でも涼しいだろうと思うのは大きな間違いで，春日山は暑い。しかも湿度が高い。おまけに山蛭がいる。私は高い所にいるので蛭は関係ないが，樹冠の上に上半身を出しているので直射日光と葉の照り返しで林床よりはるかに暑い。そんな所で咲いても直径３～４mmの花を一日中数えている。これが案外面倒なのだ。花序ごとに数えるのだが，カラスザンショウの雌しべは先に割れ目がある。いくつに割れているかで花を５種類に区別し，さらに果実では種子の数でも分ける。すると，全部で15種類の場合分けができる。花序一つに数百個の花があるのに15回も見直していられないので，一度に何種類かの花（果実）をかぞえてしまう。だから，カウンター・手の指・足の指をフル活用し，頭の中でもいくつかの数字をかぞえる羽目になる。もし途中で気を散らすようなことがあろうものなら，全てが水の泡でやり直しだ。よく私の邪魔をするのは風だ。カラスザンショウの枝はすごく軟らかいので，風が吹くと大きくゆれる。枝の間に挟まって立っている私にとっては一大事だ。がんばって立っていれば枝が折れるかもしれない。枝と一緒に動けば狭いタラップから落ちてしまう。伏せるしかない。風の音から方向と強さとを聞き分け，狭い枝の間から抜け出るのも上手になった。さすがに暑さには慣れないが，地味な花も長いつ

きあいになればかわいく見えてくる。果実も良い香りだと感じられるようになる。葉を傷つけてしまった時など，人間が相手のように声に出して謝ったり，棘にひっかけては悪態をついてみたり。他の人が見ればちょっとアブナイ人に見えるかもしれない。カラスザンショウのほうは迷惑なだけだと思っているかもしれないが，今ではカラスザンショウは私の友人のようなものだ。ここでいろんな事を学んだ。いろんな事を考えた。タワーの上は私のもう一つの部屋だ。夏の間は靴を脱いでいるし，時間があるときにはお昼寝さえしている程だ。もちろん命綱つきで。

昼寝をするほど時間に余裕がなくとも，高さ13mのタワーからはいろいろなものを見ることができる。まず小鳥が来る。人がいてもあまり意に介さず，手が届かない所になら平気でやってくる。私が鳥の名前を覚えるようになったのはタワーに登り始めてからだ。カラスザンショウの種子を食べに来るのはメジロとコゲラ。メジロの群の中にコゲラが二・三羽混じっていることが多い。エナガを初めて見たのもタワーの上だ。白地に灰色のすじと淡桃色のぼかし，こんなかわいい小鳥が日本にもいるのかと驚いた。今までで最も印象深いのは，三年前に出会ったアオゲラだ。雄だったと思う。あまりに近い音に辺りを見回すとすぐそこにいた。5mばかり離れた立ち枯れのスギにキツツキ独特の姿勢でしっかりと摑まり，写真で，映像で見た姿そのままにそこにいた。しばし呆然。赤と黄緑のコントラストの艶々と美しいこと。見惚れてしまった。それ以来もう一度会えないかと待っているが，スギにつついた跡があるばかり，音が遠くから聞こえるばかりで再会はまだ果たしていない。

毎年楽しみにしている花もいくつかある。沢の向こう側の斜面に咲く，木が真白になるほどの花。遠すぎて何の花かは分からない。タワーの少し下にはえているリョウブ。上から見ると，林床からよりよく目立つ。ツルアジサイも咲く。それからクロバイ。今年（1995）は，特に花が多かったので圧巻だった。白い花弁に黄色い雄しべ。さすが虫媒花とうなづかせる香り。スギの立ち枯れも良い。風で波うつ緑の海の上にすっくと立っている姿は，孤高の凛々しさを感じさせる。紅葉の頃も良い。斜面の所々に色付くムクロジやカラスザンショウ。常緑樹の緑の中に黄色が点々と入っている様は，なかなか渋い美しさを持っている。カエデの深紅の紅葉とはひと味ちがう美しさだ。

春日山の調査区に通いはじめて五年。「花が好き」というだけで研究を始めた私だが，今ではタワーの回り以外にも沢山のお気に入りがある。例えば尾根にあるヤマザクラの老木。毎年里の桜が終わった頃白い清楚な花を咲かしてくれる。例えばいつもマムシがひなたぼっこしている小さなギャップ。通りかかる度にせっかくのお昼寝を邪魔してごめんね。それからシカの子どもの隠れ場所。イノシシのぬた場。そしてアカガシの大木が倒れた大きなギャップ。次の林冠木を目指して伸びようとしている木々が元気いっぱいに光を浴びている。歩き回る仕事が少ないので知らないところもいっぱいあるが，いろんなお気に入りの場所を見つけた。これからも通うことができる限りは通い続け，フィールド・ワークを楽しみながら，森のいきものや空気を感じていたい。いつまでも森を感じていたい。



Zanthoxylum ailanthoides